

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	各種健(検)診に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	1	2	
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	健康増進課			
施策	116健康を支える保健・医療の充実	担当課室長	菅井 智美			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	一部検診では外部委託などを含めた検診体制を整備。がん検診推進事業を引き続き実施をし、新規受診者を開拓する。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	働く世代の女性支援のためのがん検診未受診者対策緊急支援事業及び新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業を実施する。検診実施体制の検討。
②①に基づく取組み結果	乳がん検診の外部委託20日間。うち15日間を働く世代の女性支援のためのがん検診推進事業として実施。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内に住民登録があり、健康増進法に基づく対象年齢の者	意図(対象をどうするのか)	生活習慣病の予防、疾病の早期発見、早期治療を推進する。
②事務事業の概要	各種健(検)診は、市民の健康を守るために行うもので、サービスに対する受益と負担の公平性を確保するため、平成15年度からは一部自己負担金を徴収している。乳がん検診及び子宮頸部がん検診においては、無料クーポン券とがん検診手帳等を配布する働く世代の女性支援のためのがん検診未受診者対策緊急支援事業及び新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	高齢化や都市化などによる生活習慣病増加の中、予防、疾病の早期発見、早期治療ということで、各種健(検)診を開始。高齢化や退職等、経済状況による事業所等の検診実施の減少により、市の検診受診者の増が見込まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	各種健(検)診を別添資料のとおり実施した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	胃・大腸・胸部検診受診率	18.3	17.8	17.7	%	業務取得
	ii	乳がん・子宮がん検診受診率	19.9	18.6	18.7	%	業務取得
	iii	肝炎ウイルス検診受診率(40歳)	25.8	24.5	32.6	%	業務取得
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳		平成27年度予算		
事業費(千円)	92,344	97,113	金額(千円)	内容	107,340		
国支出金(千円)	4,650	5,640	11,139	賃金	3,484		
県支出金(千円)	1,809	1,898	19,006	医師報償	3,349		
市債その他(千円)	8,813	8,612	53,971	健(検)診委託料	8,801		
一般財源(千円)	77,072	80,963	5,511	撮影機器使用料等	91,706		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	受診率の向上。高齢化や社会的状況により受診希望者の増加が見込まれることによる検診実施体制をどうするかが課題。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	疾病の早期発見、早期治療につながることで、市民の健康保持につながるもの。健康増進法等により実施するもので廃止はできない。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	平成26年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績		当初			H25からの繰越	
		H25⇒26繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
		平成27年度への繰越額(単位:千円)				

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	予防接種に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	1	2	
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	健康増進課			
施策	116健康を支える保健・医療の充実	担当課室長	菅井 智美			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	予防接種に関する制度改正等に迅速に対応する。接種率向上のため、必要な周知、接種勧奨をする。	③平成27年度に取り組む改革・改善内容	予防接種に関する制度改正等に迅速に対応する。接種率向上のため、必要な周知、接種勧奨をする。
②①に基づく取り組み結果	水痘及び高齢者用肺炎球菌ワクチンの予防接種の導入、市独自の制度も整備した。個別通知、広報等への掲載、様々な場を活用した周知と共に、必要な接種勧奨をした。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	予防接種法で定められた対象者及び市長が対象とする者	意図(対象をどうするのか)	予防接種で防げる感染症の発生及びまん延を予防する。
②事務事業の概要	予防接種は、伝染の恐れがある疾病の発生及びまん延を予防するために行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	予防接種は感染症対策上極めて重要な役割を果たしてきた。感染症の流行やワクチンの効果及び副反応等の見直し、新たなワクチンの開発等により、接種制度の改正がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	乳幼児、児童、生徒対象分と高齢者分の予防接種を別添資料のとおり実施した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	乳幼児予防接種率	72.3	73.8	77.6	%	業務取得
	ii	児童生徒予防接種率	78.2	51.1	35.4	%	業務取得
	iii	高齢者インフルエンザ予防接種率	42.4	41.7	42.8	%	業務取得
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳		平成27年度予算		
事業費(千円)	232,406	298,236	金額(千円)	内容	325,326		
国支出金(千円)			293,441	予防接種委託料			
県支出金(千円)	830		2,193	通信運搬費			
市債その他(千円)			1,554	印刷製本費			
一般財源(千円)	231,576	298,236	815	賃金	325,326		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	制度の改正は、多々あり、急遽ということもある。予算も含め、迅速な対応が必要。正しい情報の提供、予防接種の意義を十分に理解してもらうことが必要。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	感染症の発生及びまん延を予防するため、継続が必要。定期接種は、予防接種法により市町村長が実施するものとなっている。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	平成26年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績		当初		H25からの繰越		
		H25⇒26繰越				
③達成状況		補正		現年分		
		流用・充当				
④未完了・非着手の理由	平成27年度への繰越額(単位:千円)					

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	フッ化物洗口事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	1	4	○
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	健康増進課			
施策	116健康を支える保健・医療の充実	担当課室長	菅井智美			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	小学校1年生に対して、健康教育を行い、2学期からフッ化物洗口を週1回実施する。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	小学校2年生を5月から継続実施し、小学校1年生に対して、健康教育と洗口指導を行い、2学期からフッ化物洗口を週に1回実施する。
②①に基づく取組み結果	1年生の保護者に希望調査を行い、1年生に対して健康教育と洗口指導を実施し、2学期より洗口を開始した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	園児及び学童、生徒	意図(対象をどうするのか)	永久歯のむし歯を予防する。
②事務事業の概要	国のフッ化物洗口ガイドラインを基に、保育園・幼稚園・小学校・中学校特別支援学級においてフッ化物洗口を行い、生涯むし歯になりにくい強い永久歯を育てる。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	ほとんどの保育園、幼稚園でフッ化物洗口を実施しているので、保護者からは学校でも継続してほしいという意見がよく聞かれる。全国的にもフッ化物洗口実施施設・実施人数は、年々増加しており実施施設は10,287施設、実施人数は1,044,254人となり100万人を超えた。(H26.3現在)			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	保護者や学校関係者の理解のもと、フッ化物洗口を全校の1年生で、希望者に対して開始することができた。また、保育園・幼稚園・中学校特別支援学級において継続実施することができた。(詳細は別添参考資料のとおり)						
②成果を表す指標			平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	12歳児の一人当たりのむし歯数	0.74	1.06	0.74	本	鎌ヶ谷市学校保健統計
	ii	12歳児のむし歯のない者の割合	62.8	58.6	65.8	%	鎌ヶ谷市学校保健統計
	iii	フッ化物洗口実施人数	1,998	2,012	2,939	人	業務取得
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳			平成27年度予算	
事業費(千円)	1,396	1,701	金額(千円)	内容		2,075	
国支出金(千円)			669	非常勤賃金			
県支出金(千円)			724	需用費			
市債その他(千円)			257	委託料			
一般財源(千円)	1,396	1,701				2,075	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	小学校1年生で開始した洗口を、今後毎年1学年ずつ増加させ、6年生まで継続実施させる。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	子どものむし歯を予防することは、歯科医療費の抑制にも貢献でき、安心して子育てしやすい街づくりにも繋がる。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	小学校1年生に対して、健康教育を行い、2学期からフッ化物洗口を週1回実施する。	平成26年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	小学校1年生に対して、健康教育を行い、2学期からフッ化物洗口を週1回実施した。	2,075	2,075	当初	2,075	1,701	H25からの繰越
				H25⇒26繰越			現年分
③達成状況	完了			補正			
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成27年度への繰越額(単位:千円)					